



日本光学会の役割

山口 一郎

(理化学研究所光工学研究室)

このたび、横田英嗣前幹事長のあとを継いで、日本光学会の幹事長を2年間務めさせていただくことになりました。2,000人近くの会員の皆様に対する責任の重さに、身の引き締まるのを覚えています。日本光学会の前身である光学懇話会(1952年設立)に私が入会したのは今から31年前になります。当時日本に入ったばかりのホログラフイーの研究に励むなかで、光学懇話会のいろいろな研究会、講習会や文献抄録委員会に参加させていただき、勉強や情報交換しながら、たとえば光と電子の役割などについて議論を闘わせたことなどがあらためて想起されます。その後幹事として、講演会、サマーセミナー、冬期講習会の企画・運営や「光学」の編集、光学連合シンポジウムの開催などに携わるたびに、学会の存在意義と果たすべき役割について考えてきました。それらを要約すると、次のようになるかと思えます。

- 1) 日本光学会は、光科学や光工学に深い関心と意欲を湧かす会員が、それぞれ本務を抱えながら連帯感を持って奉仕し合うボランティア活動である。
- 2) 情報交換や討論による会員の利益を基本とするが、営利団体ではないので、いろいろな新しい試みに果敢に挑戦することもできる。
- 3) 日本の光学研究者、技術者の団体として国際的な役割が期待されている。

日本の存立は科学技術にかかっています。世界中で高い評価を受けている光学機器や事務・表示機器、光通信技術やデバイスの開発において、日本光学会は少なからぬ役割を果たしてきました。これらをさらに伸ばすとともに、あとを継ぐべき新しい光技術の開発に邁進できる土壌を整えていきたいものです。また光科学の基礎分野においても、国際的に注目され信頼される寄与を果たしていけたならば素晴らしいでしょう。これから2年の任期の間に次のようなことを目指していきたいと思っています。

- 1) 光学の啓蒙。より広い分野で光学技術が使われるようにするため、他の分野の研

究者・技術者にも光技術の原理・特徴が十分に理解されるようにしたい。科学教育においても、日常経験や波動現象などの視覚的な理解に光は重要さを増している。

- 2) シンポジウムや講習会を通して、光科学・光工学の諸分野間の交流と境界領域研究のきっかけを作ること。
- 3) 会員が発表し、議論し合った研究や技術の成果を世界に向けて発信するのを積極的に支援すること。このために、小規模でも独特なテーマを持つ国際会議をしばしば開催して、日本の研究成果を紹介し、人的な国際交流を促進したい。
- 4) 日本、そして世界のなかでの、日本光学会のアイデンティティを明らかにすること。

これらの目的を達成するためには、日本全国にまたがって多岐の分野と年齢のスペクトルを持つ会員の皆様方から、出版物や講演会企画などに対するご意見やご批判をいただきたいと思えます。それらを大切な糧とし、これまでの幹事会が築き上げてきた土台の上にさらに新たな成果を積み重ねていきたいものです。日本光学会会員の皆様のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。